

2025/06/08

説教題：試練と誘惑

聖書朗読: ヤコブの手紙 1 章 1-18 節 (NASB - New American Standard Bible)

¹神と主イエス・キリストのしもべヤコブが、国外に散っている十二の部族へあいさつを送ります。²私の兄弟たち。さまざまな試練に会うときは、それをこの上もない喜びと思いなさい。³信仰がためされると忍耐が生じるということを、あなたがたは知っているからです。⁴その忍耐を完全に働かせなさい。そうすれば、あなたがたは、何一つ欠けたところのない、成長を遂げた、完全な者となります。⁵あなたがたの中に知恵の欠けた人がいるなら、その人は、だれにでも惜しげなく、とがめることなくお与えになる神に願いなさい。そうすればきっと与えられます。⁶ただし、少しも疑わずに、信じて願いなさい。疑う人は、風に吹かれて揺れ動く、海の大波のようです。⁷そういう人は、主から何かをいただけると思っはなりません。⁸そういうのは、二心のある人で、その歩む道のすべてに安定を欠いた人です。⁹貧しい境遇にある兄弟は、自分の高い身分を誇りとしなさい。¹⁰富んでいる人は、自分が低くされることに誇りを持ちなさい。なぜなら、富んでいる人は、草の花のように過ぎ去って行くからです。¹¹太陽が熱風を伴って上って来ると、草を枯らししてしまいます。すると、その花は落ち、美しい姿は滅びます。同じように、富んでいる人も、働きの最中に消えて行くのです。¹²試練に耐える人は幸いです。耐え抜いて良しと認められた人は、神を愛する者に約束された、いのちの冠を受けるからです。¹³だれでも誘惑に会ったとき、神によって誘惑された、と言っはいいけません。神は悪に誘惑されることのない方であり、ご自分でだれを誘惑なさることもありません。¹⁴人はそれぞれ自分の欲に引かれ、おびき寄せられて、誘惑されるのです。¹⁵欲がはらむと罪を生み、罪が熟すると死を生みます。¹⁶愛する兄弟たち。だまされないようにしなさい。¹⁷すべての良い贈り物、また、すべての完全な賜物は上から来るのであって、光を造られた父から下るのです。父には移り変わりや、移り行く影はありません。¹⁸父はみこころのままに、真理のこばをもつて私たちをお生みになりました。私たちを、いわば被造物の初穂にするためなのです。

皆さん、おはようございます。また皆さんにお会いできてうれしいです。今日から、新約聖書の中で私が最も好きな書物、ヤコブの手紙を通しての説教シリーズを始めたいと思います。この手紙を新約聖書の中で一番好きな書物としているクリスチャンはたくさんいます。その理由の一つは、ヤコブが私たちの生活のいくつかの領域に関わる実践的なクリスチャン生活について論じているからです。対照的に、使徒パウロはその手紙の中で多くの重要な神学的ポイントを論じており、パウロは正しいクリスチャンの行動について多くの勧告を行っていますが、ヤコブは真のクリスチャンの弟子がどのように人生を送るべきかという実践的な側面に非常に焦点を当てているように見えます。だからこそ、私たちの多くはこの手紙を愛します。

先ほど、ヤコブ 1 章 1 節から 18 節までの聖句が朗読されました。今日のメッセージの概要は次の通りです：

1. ヤコブとその手紙の紹介。
2. 試練は私たちの信仰を試します。それは嬉しい事
3. 知恵のために祈る ... 信仰をもって祈る
4. 神の御前での富める者と貧しい者の立場。
5. 誘惑、罪、そして死

パート 1: ヤコブとその手紙の紹介 (ヤコブの手紙 1:1)

ヤコブ 1:1 を読みましょう – 「神と主イエス・キリストのしもべヤコブが、国外に散っている十二の部族へあいさつを送ります。」

ヤコブが自らを「神に仕える者」と呼んでいることに注目してください。"神のしもべ" ... "主イエス・キリストのしもべ" 他の英語聖書はこの言葉を "奴隷" と訳しています。この "しもべ" あるいは "奴隷" という言葉は何を意味するのでしょうか。

古代世界における奴隷制度は、必ずしも悪いことばかりではありませんでした。多くの場合、奴隷は大きな責任を任され、それはしばしば主人と奴隷の双方にとって有益な関係を意味しました。旧約聖書では、モーセを含む何人かが神の奴隷と呼ばれています。新約聖書の著者たちは、自分たちをイエス・キリストの奴隷と呼んでいます。これは、神の家庭における名誉ある地位と、主イエス・キリストへの服従の約束を意味する言葉でした。主への従順と献身です。

次の質問です： ヤコブとは誰なのでしょう？ 新約聖書には、この名前を持つ人物が何人か登場します。イエス・キリストの十二弟子のうち二人がこの名前を持っています。マタイによる福音書 10 章 2 節から 4 節を見ますと、ヤコブという名前の人が二人出てきます。2 節にはゼベダイの子でヨハネの兄弟であるヤコブ、3 節にはアルパヨの子ヤコブが出てきます。しかし、ほとんどの聖書学者によれば、この二人はどちらもヤコブの書いた手紙の著者ではないようです。

[説教中は読みません。マタイ 10:2-4 –² さて、十二使徒の名は次のとおりである。まず、ペテロと呼ばれるシモンとその兄弟アンデレ、ゼベダイの子ヤコブとその兄弟ヨハネ、³ ピリポとバルトロマイ、トマスと取税人マタイ、アルパヨの子ヤコブとタダイ、⁴ 熱心党員シモンとイエスを裏切ったイスカリオテ・ユダである。]

この手紙を書いたヤコブという人物がイエスの半兄弟であることは、私にも多くの聖書注解者にも明らかです。ご存知のように、イエスはマリヤの子であり、マリヤは人間の父親ではなく、聖霊の力によって子を宿しました。しかし、マリヤはヨセフと婚約しており、結婚してイエスが生まれた後、ヨセフとマリヤは自然な形で他の息子と娘をもうけました。イエス・キリストが 3 年間の宣教の間、故郷ナザレの会堂で教えていた時、知人たちがマルコによる福音書 6 章 3 節にある次のような言葉でイエス・キリストを批判しました。

「『この人は大工ではありませんか。マリヤの子で、ヤコブ、ヨセ、ユダ、シモンの兄弟ではありませんか。その妹たちも、私たちとここに住んでいるではありませんか。』 こうして彼らはイエスにつまずいた。」

ヤコブという兄弟はイエスの半兄弟です。そして、3 節のヤコブ（ユダス：ギリシャ語の名前）という兄弟は、私たちがユダ（英語）と呼んでいる人物で、新約聖書の黙示録の直前にあるユダの小書簡の著者と思われます。ユダの前半の 1 節を読んでみよう。「イエス・キリストのしもべであり、ヤコブの兄弟であるユダから…」 ヤコブとユダは兄弟であ

り、マルコによる福音書 6 章 3 節でイエスの兄弟として言及されている人物と同じであったようです。そして、二人とも主にイエス・キリストに仕える者であることを自認していることに気がつきます。ところで、使徒パウロ、ペテロ、ヨハネもまた、自分たちのことをこのように呼んでいます。

ヤコブという人物についても一つ重要なことは、エルサレムの教会の指導者の一人であったようだという事です。このことは、ガラテヤ 1:19、2:9、使徒 12:17、15:13-29、21:17-18 などの箇所で見ることができます。また、コリント第一 15:3-8 には、主イエスが復活した後、ペテロ、次にヤコブ、そして最後にパウロを含む何人かの人々に現れたと書かれています。これらの箇所については、各自で調べていただきたいと思います。

[ガラテヤ 1:18-19 - ¹⁸それから三年後に、私はケパ（ペテロ）をたずねてエルサレムに上り、彼のもとに十五日間滞在しました。 ¹⁹しかし、主の兄弟ヤコブは別として、ほかの使徒にはだれにも会いませんでした。]

ヤコブの手紙 1 章 1 節に戻りましょう。ヤコブの手紙の宛先は「外国に散っている十二部族に」です。ここには、北王国と南王国がアッシリアとバビロンによって滅ぼされた後、散らされたイスラエルの 12 部族を暗示していることがわかります。しかし、迫害のために散らされた初期のクリスチャンたちをも暗示しているのかもしれません。ヤコブの手紙の 1 章には、試練の中でも信仰を貫くようにという勧めがあります。ヤコブの手紙が書かれたのは、おそらく紀元 40 年から 48 年の間と思われます。ヤコブはユダヤ人の考え方を示しており、彼の手紙にはユダヤ教の律法に関する考察が多く含まれています。

この手紙の紹介はこれで十分でしょう。今日の聖書個所の主な教訓に移りましょう。

パート 2：試練は私たちの信仰を試す-そのことを喜びなさい（ヤコブ 1:2-4）

ヤコブ 1:2-4 を読みましょう - 「²私の兄弟たち。さまざまな試練に会うときは、それをこの上もない喜びと思いなさい。³信仰がためされると忍耐が生じるということを、あなたがたは知っているからです。⁴その忍耐を完全に働かせなさい。そうすれば、あなたがたは、何一つ欠けたところのない、成長を遂げた、完全な者となります。」

ここでまず指摘したいのは、このプロセスを経なければならないのは喜ばしい経験だと考えるべきだということです。なぜなら、ヤコブはそのプロセスの終わりに、私たちは「完全に完成された者」になると教えているからです。英語の聖書では、この節や新約聖書の他の節でしばしば「完全な」という言葉が使われていますが、ここでのギリシャ語は、「成熟した」、「全部の」、「『道徳的に完全な』」、「本物の」など、他の訳し方もできます。ここでの考え方は、私たちが絶対的に完全になることではなく、それは私たちが今の肉体に生きている限り不可能です。しかし、私たちの信仰の真新しさを試し、神が私たちに望んでおられる完成品となるよう導くプロセスを経て、私たちは成熟するので

私たちが信仰が本物かどうか試され、成熟して完全なものとなります。3 節によれば、私たちはこのプロセスを歓迎すべきであり、この試練が忍耐と成熟を生み出すのだから、喜

びと考えるべきです。2節によれば、私たちはこのプロセスを歓迎すべきです.....この試練が忍耐と成熟を生み出すのだから、喜びと考えるべきなのです。

ヘブル人への手紙 12 章から聖書箇所をお読みします。7 節- 「訓練と思って耐え忍びなさい。神はあなたがたを子として扱っておられるのです。父が懲らしめることをしない子がいるでしょうか。」もしあなたが本当に神の息子や娘であるなら、神はあなたを懲らしめようとされます。あなたが父親や母親から受ける懲らしめは、あなたが成熟した責任ある大人になるための成長の一部なのです。神が神の子らを懲らしめるのは、彼らが成熟した責任あるクリスチャンになるためです。

ヘブル人への手紙 12:11 - 「すべての懲らしめは、そのときは喜ばしいものではなく、かえって悲しく思われるものですが、後になると、これによって訓練された人々に平安な義の実を結ばせます。」この鍛錬が行われている時期には、喜びを感じることはないのですが、最終的な結果は望ましいものです。主の懲らしめによって訓練された後、その結果は「平安な義の実を結ばせる」と、この聖句は教えています。聖さと正しい生き方は、クリスチャンの霊的形成の目標であり、神との平和、互いとの平和でもあります。

ヤコブの 1:3-4 に戻しましょう - 「³信仰がためされると忍耐が生じるということを、あなたがたは知っているからです。⁴その忍耐を完全に働かせなさい。そうすれば、あなたがたは、何一つ欠けたところのない、成長を遂げた、完全な者となります。」

忍耐が完璧な結果をもたらすように。

その目的は、あなたが成熟し、何一つ欠けるところのない完全な者となることである。主の懲らしめの最終目標は、平安な義の実を結ばせる。

私自身の人生においても、この忍耐と試練の道を旅する中で、自分の人生に起こる物事に不平不満を感じることがあります。物事が思い通りに進まなかったり、期待通りにいかなかったりすることもあります。クリスチャンの歩みには山あり谷あり、高いところもあれば低いところもあります。私の人生には大きな失望もあったし、そのような経験をしながら、時には激しく不平を言ったこともありました.....しかし、それが聖書から答えを求めることにつながりました。そして、時には賢明なカウンセラーに意見やアドバイスを求めることもあります。私の好きな聖句のひとつは、詩篇 46 篇 10 節 a の「わたしが神であることを知れ」でした。ただ落ち着いて、私の焦点を自己や状況からそらす。神に集中する。神の御言葉を黙想する。神を知り、神と正しい関係になる。そして、私の人生のハイポイント、ローポイントのすべてを通して、ヤコブ 1 章のこの聖句が私たちに勧めているように、信仰が強められるのを感じてきました。

先に進んで、ヤコブ 1:12 に行きましょう - 「試練に耐える人は幸いです。耐え抜いて良しと認められた（テストの合格した）人は、神を愛する者に約束された、いのちの冠を受けるからです。」この節の「認められる」というギリシャ語の語源は、3 節の「テストす

る」という言葉と同じです。つまり、私の NASB では、「be approved」を「passed the test」と読み替えています。試練に耐え、忠実であり続けるクリスチャンは、試練に合格したのです。その信仰の純粋さが証明されたのです。

試練は信仰を試され、認められる機会だからだ、試練に遭遇することを喜びと考えるべきです。ペテロの手紙 第一 1:6-7 - 「そういうわけで、あなたがたは大いに喜んでいます。いまは、しばらくの間、さまざまな試練の中で、悲しまなければならぬのですが、⁷信仰の試練は、火を通して精練されてもなお朽ちて行く金よりも尊いのであって、イエス・キリストの現われのときに称賛と光栄と栄誉に至るものであることがわかります。」

そして最後には、ヤコブが言うように、「いのちの冠」を受けます。

パート 3：知恵を求める祈り-信仰をもって祈る（ヤコブ 1:5-8）

ヤコブ 1:5-8 に行きましょう - 「⁵あなたがたの中に知恵の欠けた人がいるなら、その人は、だれにでも惜しげなく、とがめることなくお与えになる神に願いなさい。そうすればきっと与えられます。⁶ただし、少しも疑わずに、信じて願いなさい。疑う人は、風に吹かれて揺れ動く、海の大波のようです。⁷そういう人は、主から何かをいただけたと思っはなりません。⁸そういうのは、二心のある人で、その歩む道のすべてに安定を欠いた人です。」

信仰を試される試練を経験するとき、私たちは神に知恵を求めるよう勧められています。つまり、私たちが経験していることを理解するための知恵を求めて神に祈るのです。あなたが望む答えがすべて得られるとは限りませんが、神はあなたが歩んでいる道を進むために必要なことを与えてくださいます。

旧約聖書のヨブの話思い出します。彼は義人でしたが、信仰深く正しいままでいられるかどうか、さまざまな試練を受けました。神に不平を言うこともありましたが、決して神を責めることはありませんでした。そして、彼はその経験を経ながら、いくつかの貴重な教訓を学びました。ヨブ記を読めば、ヨブ自身には、これらのことの背後にあることを知らされていませんでしたが、私たちが、このヨブ記を読めば裏事情を知ることができます。ヨブ記は、サタンが、ヨブは本当に義人であるかどうかを証明するために、ヨブに苦難が降りかかるのを許すよう神に挑む天の場面から始まります。神は、サタンがヨブの家族とヨブの健康にさまざまな災いをもたらすのを許します。ヨブは、なぜこのようなことが自分に起こるのかわからないのですが、神に背を向けることを拒否し、信仰を持ち正しい人であり続けます。ヨブ記 1:22 は言います。「このようになってても罪を犯さず、神に愚痴をこぼさなかった。」

同じように、私たちは物事がなぜ起こるのか、いつも理解できるとは限りません。しかし神は、私たちが信仰の旅を続けるために十分な情報を与えてくださると私は信じています。私は人生で様々なトラブルに直面したと言いました。しかし私は、神が私に与えてくださ

った情報や洞察に忠実であるべきだと知っています--通常は聖書の一部から得られますが、時にはクリスチャンの兄弟や姉妹から賢明な助言の言葉をもらうこともあります。

もう一つ、私たちが覚えておきたいことは、神はいつも私たちにとって最善をなされることです。そして、たとえ失敗しても、神はいつもそれを益と変えてくださるお方である事です。神はご自分の子どもたちを愛しておられるからです。

ヤコブ 1:5 「あなたがたの中に知恵の欠けた人がいるなら、その人は、だれにでも惜しげなく、とがめることなくお与えになる神に願いなさい。そうすればきっと与えられます。」神は私たちが神に求めることを望んでおられます。そして、神は必要な知恵を惜しみなく与えてくださいます。私の ESV スタディ・バイブルにはこう書かれています：

「知恵とは.....人生の実際的な問題に関して、神から与えられ、神を中心とする識別力である。知恵は神の助けを求める祈りから生まれます。

マタイの福音書 7:7 を思い出します「求めなさい。そうすれば与えられます。捜しなさい。そうすれば見つかります。たたきなさい。そうすれば開かれます。」私の聖書の脚注によれば、ここの動詞はこう読むべきだといひます：「求め続ければ与えられる、捜し続ければ見つかる、たたき続ければ開かれる。」しつこく求め続ける.....神に求め続けることです。

イエスは続けます。マタイ 7:8-11 – 「だれであれ、求める者は受け、捜す者は見つけ出し、たたく者には開かれます。⁹あなたがたも、自分の子がパンを下さいと言うときに、だれが石を与えるでしょう。¹⁰また、子が魚を下さいと言うのに、だれが蛇を与えるでしょう。¹¹してみると、あなたがたは、悪い者ではあっても、自分の子どもには良い物を与えることを知っているのです。とすれば、なおのこと、天におられるあなたがたの父が、どうして、求める者たちに良いものを下さらないことがありましよう。」

イエスは、私たちの祈りの、答えたいのです。

しかしヤコブは、彼の手紙の中で警告しています。ヤコブ 1:6-8 – 「ただし、少しも疑わずに、信じて願いなさい。疑う人は、風に吹かれて揺れ動く、海の大波のようです。⁷そういう人は、主から何かをいただけたらと思っではなりません。⁸そういうのは、二心のある人で、その歩む道のすべてに安定を欠いた人です。」

私たちは信仰をもって求めなければなりません。神に対する疑念や、神が私たちの祈りに答えてくださるのか、あるいは答えてくださることができるのかという疑念を抱いてはいけません。疑いは私たちの信仰を弱めます。建物や橋の内部の構造が腐食し始めるときのように、疑念は信仰を腐食させます。内部の問題は見えないが、長期的には構造にダメージを与え、崩れ始めます。祈っているにもかかわらず、祈りの効果に疑念を抱いているなら、それは自分自身を破壊し、土台を弱めていることになります。

自分が罪深いから、神は祈りにこたえてくださらないと考えてはいけません。皆罪深いのです。この地上にいる間は、地に足がついている間は、皆不完全です。神が求めておられるのは、神を愛し、神に信頼し、神を求める心です。その時、神は祈りに答えてくださるのです。

この世界の創造主であり、私たちが神との関係を持つために人間を創造された神です。なぜ祈る必要があるのか？神はすべてのものを支配しておられ、望めばいつでも何でもなさることができになるのに。なぜ主は、私たち小さき者のどんな願いにも応えなければならないのでしょうか？それは主が望んでおられることだからです：主は私たちの祈りを聞きたいと願っておられ、私たちの祈りに応えたいと願っておられます。私たちの祈りに「ノー」と答えることもあるでしょうし、私たちの期待とは違う方法で、私たちが望む時期とは違う時期に答えてくださるかもしれませんが、主は私たちの祈りに耳を傾けたいと願っておられます。

これらの考えを熟考し続けるうちに、神は私たちが神に依存する関係になることを望んでおられることに気づきました。私たちが神に祈るとき、私たちは自分を神の傘の下に置く.....神に依存していることを認める.....そして、神に願いを差し出すとき、私たちはその答えを神に委ね、神に持ち込んだ願いについてこれ以上心配することはないはずです。だ私たちは問題を主に委ねたのだから、あとは父が対処してくださるのです。

私はピリピ人への手紙 4:6-7 が好きです – 「何も思い煩わないで、あらゆるばあいに、感謝をもってささげる祈りと願いによって、あなたがたの願い事を神に知っていただきなさい。⁷ そうすれば、人のすべての考えにまさる神の平安が、あなたがたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってくれます。」

私たちは何も思い煩う必要はありません。私たちは祈りの願いと嘆願を主に捧げることができます。主はそれを望んでおられます。そして、過去に主が私たちを祝福してくださったさまざまな方法に対する感謝の気持ちを表しながら、そうすべきです。そして、主の御前に祈りと願いを捧げ、主の配慮の傘の下に身を置いた後は、神の素晴らしい平安が私たちの心と心を守ってくれる--この手順を踏んでいれば、私たちの心と心は安らかな平安の中にあることができます。私はこのことを何度も経験してきました。祈ることを忘れたり、神の祝福に感謝することを忘れたりしたために不安になったこともあります。

まあ、もっと言いたいことはありますが、そろそろ今日のメッセージの次のポイントに移ろう。

パート 4：神の御前での富める者と貧しい者の立場。(ヤコブ 1:9-11)

今日の一節の次の段落には、私が興味をそそられる考え方が書かれています。

ヤコブ 1:9-11 を読みましょう – 「貧しい境遇にある兄弟は、自分の高い身分を誇りとしなさい。¹⁰ 富んでいる人は、自分が低くされることに誇りを持ちなさい。なぜなら、富んでいる人は、草の花のように過ぎ去って行くからです。¹¹ 太陽が熱風を伴って上って来ると、草を枯らしてしまいます。すると、その花は落ち、美しい姿は滅びます。同じように、富んでいる人も、働きの最中に消えて行くのです。」

この言葉を読むと、神の国での人間関係が逆転しているように感じます。謙遜な出自のクリスチャンは、自分たちが宇宙の創造主の養子であり、養女であるという特権を持っていることを誇ることができるのです。一方、金持ちのクリスチャンは、自分たちがこの地上を短い間歩き、やがて他の人たちと同じように墓場で終わるただの人間であることを思い出すべきです。金持ちのクリスチャンは、高慢になったり、自分の地位を私利私欲のために利用したりして、より多くの富や権力を手に入れるべきではありません。その代わりに、自分より恵まれない人々を助けるために、その資源を使うべきです（このテーマについては、第一ヨハネ 3:16-18 を参照してください）。

使徒パウロは、主が私たちをご自分に従う者として召されたときの私たちの社会的状態について、こう述べている：「奴隷であったときに主に召された者は、主の自由人であり、自由であったときに召された者は、キリストの奴隷である。あなたも私も、もはや自由人ではなく、イエス・キリストの奴隷であると考えなければならなりません。— 私は今日のメッセージの冒頭で、新約聖書の著者の何人かが自らを「イエス・キリストの奴隷」と呼んでいることを指摘しました。一方、パウロは、クリスチャンになった奴隷は誰でも、主にあって自由人であることを誇ることができると聴衆に語っています。彼はまだ地上の主人を持っていますが、クリスチャンの弟子として自由人なのです。もし彼の主人がクリスチャンであれば、主人と奴隷は兄弟である。その事については、パウロのピレモンへの手紙 16 節で読むことが出来ます。

今日の最後のメッセージに移りましょう。

パート 5: 誘惑、罪、そして死 (ヤコブ 1:13-18)

これはヤコブの手紙の中で私が最も好きな箇所の一つです。誘惑と罪のプロセスについての実践的な考察です。ここには、私たちが罪を避けるための方法がいくつか書かれています。罪は私たちを神から引き離すものであり、神は私たちが罪を捨て、罪を避けることを望んでおられます。これが、御子イエス・キリストをこの世に遣わされた理由です。マタイによる福音書 1 章 21 節をはじめ、新約聖書の多くの箇所で言われているように、私たちが罪から救うためである。

ヤコブ 1:13-15 を読みましょう – 「だれでも誘惑に会ったとき、神によって誘惑された、と言ってははいけません。神は悪に誘惑されることのない方であり、ご自分でだれを誘惑なさることもありません。¹⁴ 人はそれぞれ自分の欲に引かれ、おびき寄せられて、誘惑されるのです。¹⁵ 欲がはらむと罪を生み、罪が熟すると死を生みます。」

これは、否定的なトピックですが、必要なトピックです。私たちが神から引き離し、クリスチャンとして悔い改めるよう求められているのは罪だからです。というのは、もしあなたが、罪から離れようとしないなら、創造主から永遠に引き離される運命にあるからです。

クリスチャンと名乗るなら、生活の中で罪を捨てたいと思うはずです。私たちの周りには誘惑が満ち、人間の本性は私たちを簡単に間違った方向へと導いてしまうのに、どうしてそんなことができるのでしょうか？誘惑と罪のプロセス、そしてそのプロセスを断ち切る方法、罪を避ける方法、つまり罪と死を避ける方法について述べているこの箇所は、非常に洞察に富んでいて参考になります。

第一に、ヤコブは誘惑に "さらされた**時**" と言っていることに注意してください - **もし**ではなく**時**です。誘惑は避けられないものなので、それに備えることです。

第二に、あなたの状況を神のせいにしないでほしいです。神は誘惑などしておられない。決して。この箇所は、第三に、私たち一人一人が自分の内側から誘惑に導かれることをはっきりと述べています。4節によれば、私たちが誘惑されるのは、私たち自身の欲望に流され、誘惑される時である。それは私たちの内側、つまり私たち自身の欲望である。私たちはそれぞれ違うものに欲情するかもしれないが、この欲望は私たちの内側から来るものであり、神や他の誰かを責めてはならない。罪への誘惑は私たちの内側から始まるのだ。この箇所は、第三に、私たち一人一人が自分の内側から誘惑に導かれることをはっきりと述べている。それは私たちの内側、つまり私たち自身の欲望である。私たちはそれぞれ違うものに欲情するかもしれないが、この欲望は私たちの内側から来るものであり、神や他の誰かを責めてはいけません。罪への誘惑は私たちの内側から始まるのですから。

誘惑そのものは罪ではありません。しかし、私たちが自分の前を横切る誘惑に注意し、自分の内なる欲望をかき立てられるとき、15節にはそのプロセスが記されています。私たちの欲望が誘惑と相互作用するとき、受胎が起こります。そして受胎は罪の誕生につながります。そして、罪を悔い改めることなく継続させるとき、罪は完全に結実し、死に至ります。死です。これはいいプロセスではありません。

ある説教者がこのことについて語ったのを聞いたことがあります。その話は、とても有益だと思いました。その説教者は、あるクリスチャンの男性と話をしたことがあるそうだが、その男性は、自分の心の中に情欲的な思いがよぎることに非常に悩んでいたそう。その男性は公共の場で、魅力的な体の美少女を見かけたという。「助けてください！その女の子を見ると、いろいろな思いが頭の中を駆け巡るのです！」と言いました。説教者は答えました「主をほめ称えます。あなたは、人間です。その考えは自然なことです。重要なのは、その女の子を最初に見ることではありません。大事なものは二度目です。あなたはその女の子とその身体をもう一度見ますか？もしそうなら、欲望にまかせて罪深い欲望を抱くことが、罪を犯すことになります。」

その話は本当に参考になりました。一度目に生じた時は罪ではないのです。二度目に見たいと切望したときに罪となります。それは、誘惑がすでに心の中に潜んでいる欲望と相互作用するときです。この誘惑、罪、死のプロセスを避ける秘訣は、誘惑から顔をそむけ、誘惑を拒み、誘惑を甘やかすことを拒むことです。誘惑から頭をそらすのです！それが肉

欲であれ、金銭欲であれ、名声欲であれ、何であれ、そこから頭をそらし、欲望に溺れることを拒否することです。

私は、このアドバイスが本当に役立つものであり、恐ろしい結果をもたらす可能性のある多くの罪深い状況から私を遠ざけてくれたことに気づきました。だから、私は今日、この忠告をあなた方と分かち合いたいと思います。

今日のメッセ維持の最後の部分で今日のメッセージを閉じたいと思います。ヤコブ 1:16-18 – 「愛する兄弟たち。だまされないようにしなさい。¹⁷すべての良い贈り物、また、すべての完全な賜物は上から来るのであって、光を造られた父から下るのです。父には移り変わりや、移り行く影はありません。¹⁸父はみこころのままに、真理のこばをもって私たちをお生みになりました。私たちを、いわば被造物の初穂にするためなのです。」

欲望と罪は人を惑わす。箴言 7 章はこのことを鮮明に描写しており、同章の 23 節は、若者が欲望に溺れて罪を犯すと、それが彼の命を奪うことになるかと教えています。惑わされてはなりません：結局のところ、罪は快樂ではなく、あなたを破滅に導く残酷な主人なのだ。誘惑は、あなたに魅力的な機会があると思わせようとしますが、それは神からのものではありません。神は良い贈り物しか与えません。すべての良い贈り物、完全な贈り物は神からもたらされるのです。

今日のメッセージを終わります。祈りましょう。